

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570500258		
法人名	医療法人 信和会		
事業所名	グループホーム 和楽 さくら棟		
所在地	宮崎県小林市堤2939番地		
自己評価作成日	平成30年9月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	平成30年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人が運営する病院、介護療養型医療施設などが同一敷地内にあり協力体制ができています。また認知症専門の医療機関でもあり常に相談できる体制である。居室に個々にトイレが設置してありプライバシーが保てる。町中にあるため利便性がある。家族や知人、地域の方がいつでも自由にきてもらえるよう門扉の開放、玄関の開放、ウエルカムで対応している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2ユニットのグループホームである。グループホーム全体の理念を玄関に掲げているが、各ユニットごとに年間目標を掲げ取り組みを行っている。管理者は入居者の状態や職員の意見を重視して取り組みがなされている。同敷地内にある医療法人が経営する病院や介護療養型医療施設と連携を取り常に相談や協力を得られる体制にある。職員が安心して入居者の支援に専念できる環境が出来ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の「和気あいあい」を念頭に置き、スタッフが健康でいつも笑顔でいることが利用者へのサービスに繋がることを話している	創設者の理念を基に毎日ではないが読み上げや伝達がされ職員に浸透している。年度毎に職員の意見をきいてリーダーと管理者で話し合い、ユニットの目標を作成し掲示している。職員に周知し見直しも行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的にはできていないが、大きなイベントなどがあると声かけは行っている。また、散歩などで住民の方と会うと挨拶をおこなっている	買い物や散歩時に地域の方に挨拶することはあるが、地域との交流は少ない。ホームの行事時に参加の声掛けを行っている。地域の行事に誘ってくれる地域住民もいる。区長に運営会議に参加を呼びかけている。回覧板にて地域に情報発信したいと考えている。	地域の事業所として自治会に加入するなど、地域との継続したつながりを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも訪問していただけるよう、門扉を開放し入りやすい環境を作っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催しており、利用者へのサービス内容や事故報告などを行い、質問や意見などに答えている	定期的に運営推進会議を行い入居者の報告や行事の様子をDVDで見てもらっている。事故等についても報告している。今後地域の方の参加や入居者の参加も考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	解らないことや、困難な事案が発生した場合は長寿課の担当者に連絡し指示をもらっている。又、相談しやすい環境なので遠慮なくしている。	行政に対し不明な点や困難な事案が発生した場合は市の長寿課に出向き相談している。日頃から連絡を取り合い信頼関係は出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前より身体拘束はしていない。病院と併設しており、「行動制限検討会」にスタッフが1名参加して全スタッフへ報告している	毎月同一法人の病院で身体拘束会議を行っている。ホームから代表が出席し議事録を職員に見てもらっている。自分自身の振り返りの為のアンケートも実施している。気がかりな事があれば職員同士声を掛け合い注意合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ間でお互いに注意するように心がけ、スピーチロックをしないよう促している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年度までは「成年後見ネットワーク」という会にスタッフが参加していたが、被後見人がいなくなったことで現在は参加していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時まで何回も当事業所について説明を行い、契約時にも再度説明を行い、納得していただき入居の運びとしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが、利用がない。家族面会時に声かけを行ない、要望や意見を聞かせてもらっている。内容によりスタッフで検討会を行ったりしている	直接ホームに要望を言われる家族もあるが何も言われない家族もある。毎月利用料を支払いに見える際に声掛け等を行って情報収集している。4か月毎にホーム便りを送信し状況を知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	それぞれのスタッフが各棟のリーダーへ意見を述べ、それをまとめて検討会を行っている。又、直接スタッフから意見を求められることも多いため、まずは各リーダーの意見を聞くようにしている	職員からは支援に関して良く意見が出ている。職員の意見や要望はリーダー会議で話し合っている。管理者は各棟のリーダーから意見を聞き、法人へ報告し職員の意見や提案を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト作成前に希望休暇を聞いたり、各個人の勤務に対する要望などをできる限り叶えるよう努力している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会などを設けている。また、資格取得のための研修費などの支援を受けられるよう、スタッフに負担がいかないようできることを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「おたまじゃくし会」や「県西ブロック」などで、各事業所スタッフの意見交換会などに出席し、業務の悩みや相談などを出し合い良い影響をうけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報を正確に収集し、その人に合ったサービスの提供ができるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望や意見に対し、できるだけ応えられるよう努めている。しかし、難しい場合は丁重に断ることもある		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者によっては他科受診時、半日時間がかかるため、福祉サービスを利用し、送迎や付き添いなどもお願いしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人一人にできるだけ合わせながら集団生活を送ってもらっている。無理な強要はせず、その人のペースで過ごしてもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	対応が困難な利用者の方には家族の協力をもらいながら支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	レクリエーション活動の中に昔されていたことを取り入れたり昔の唄と一緒に歌ったり昔を思い出す活動もしている	以前は知人の訪問はあったが、話がかみ合わなくなり足が遠のいた事例がある。家族と一緒に外食や墓参りに出かけている。外泊する入居者もいる。買い物や散髪等関係性の継続の取り組みをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間でのトラブルがあった時は、すぐにスタッフが気付き仲裁に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居期間が長かった利用者などの家族とは現在も関わりをもち、他者への当ホームの紹介をしてもらったり、それが入居へ繋がったりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何かをしてほしいと訴えがある場合など、スタッフはできる限りその人の意思を尊重しながら対応するよう心掛けている	生活上の楽しみなど、これまでの暮らしの在り方を家族から情報収集している。意志表示の出来ない入居者には日々の観察を積み重ねて把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報を必ず確認し、把握している また、入居後に発見することもあるので、その都度、記録にし他スタッフと情報を共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	洗濯ものをたたんだり、干したり、テーブル吹きをしてもらったりできることをしてもらっている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々のサービスに向けているいろいろな情報を共有し、家族の了解がいることはきちんと説明し了承を得てケアプランにあげたりしている	モニタリングは3ヶ月に1回行っている。本人の状態に応じた計画を作成している。家族、専門職等、必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートに記載し、全スタッフで情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じ他のサービスを利用したり連絡を取り合っサービスを提供をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて行事等でボランティアの方の協力をいただきながら対応している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医を継続するか、保養院にするか、家族の希望を聞いたり、院長の判断で適切に行っている	かかりつけ医は本人、家族の希望となっている。系列の病院との連携が取れており、医師や歯科医師の往診がある。また看護師の訪問もある。受診は基本的には家族に依頼するが、必要に応じ、職員、シルバーサポート、介護タクシーを利用する事もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	外来のナースへ報告、連絡、相談を行い適切な処置を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、一ヶ月の期間、居室を保つことを約束している。しかし、期間を過ぎても、ホームで受け入れが可能な場合は期間延長の緩和をしていることを話している。担当者との関係は保たれていると思う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	特に食事関係で量や水分が十分でない利用者に関しては、保養院ナースとの連携で対処している。ご家族へも状態をその都度報告し、ホームで出来ることを行い工夫しながら取り組んでいることを報告している	看取りの指針や同意書は整備されているがマニュアルは作成されていない。入居者の状態変化時には家族に対して都度説明を行い理解を得ている。朝のミーティング時に入居者の状態を確認し把握はしている。系列の医師、看護師との連携は整っているが看取りに対して職員は不安を抱えている。	重度化した場合や終末期の在り方について看取りのビデオや勉強会を行い、マニュアルを作成し家族が安心でき、職員が不安なく看取りのできる環境作りを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないが、マニュアルに沿って対応している。医療面に関してはバイタルチェックなど簡単な事は行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	病院との避難訓練を定期的に行っている 災害時に備えた取り組みも行っている	年2回系列の職員と一緒に避難訓練を行っている。訓練後はアンケートを取り次回に繋げている。火元に応じた避難場所を設置している。非常時の水、非常食を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴染みのある方言を使い会話をしたり、利用者に対して言葉使いに気をつけている	プライバシーを損ねない様対応している。特に言葉かけには気を配っている。1人ひとりにあった言葉を選び声掛けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ本人が自己決定できる様に心がけている またスタッフ間でそのことを共有し、対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課に沿って行っているが、利用者の希望を聞きそのように対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回の理、美容の訪問サービスを利用している 個人で行きつけの美容室に行かれ、髪を染めたりカットしたりしている利用者もいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は毎回、利用者・スタッフ一緒に頂いている 片付けなどは利用者が自ら手伝ってくれたり一緒にできる体制をとっている	職員が毎食食堂で調理し食事の臭いや包丁の音を感じられている。畑で栽培した野菜を使用している。馴染みの箸や食器を使用している。入居者が食器のかたづけや、台拭き等できる事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量のチェックを毎日行っている 又調理スタッフが栄養のバランスを考えて提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夜間帯は義歯洗浄剤に一晩つけたり、食後のブラッシングを手伝ったり、口臭のある方にはそれ用の口臭防止液で口をゆすいだりと工夫している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人に必要に応じて、リハビリパンツや尿とりパッドを使い分けて使用している。コスト面も考え日中はできるだけトイレでの排泄を支援している	布パンツやリハビリパンツを使用し個人の表情や動きを把握し支援している。排泄チェック表は排泄時の状況まで細かく記録されている。自室にトイレが設置されており、夜間帯もトイレ排泄支援ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排尿、排便のチェックを行い、下剤の調整を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴でその人のペースに合った入浴介助をしている	毎日お湯が準備され、1日おきに全員が入浴できるようにしている。入浴を嫌がる入居者には時間をおいて別な職員が声掛け誘導している。無理強いしない様になっている。入浴剤を使用したり気分よく入浴できる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冷暖房にて空調の調節を行い、気持ちよく眠れる環境を作っている。また対話など行い安心して休めるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に記載してある記録を確認し、その薬の目的や副作用等を読み利用者に症状の変化などないか様子観察している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前中はレクリエーション活動を行い、午後からは洗濯物たたみ等できることを一緒にやっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日のスタッフの人数にもよるが、天気やその方の体調をみて散歩をしたり、時には買い物にでかけたりしている	外出の機会を多くするため職員の協力を得ながら屋外に出る支援を心掛けている。土、日の面会時に自宅に帰省する入居者もいる。季節に合わせて外食や、花見へ職員が外出の機会を設けている。散歩や近くのスーパーへ買い物に出かける等、日常的に外出する工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの利用者は金銭管理が困難である 現在、2名の利用者が財布を所持して自分で買い物をしていただいている また、診察時に自分で支払いをしてもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望により電話したいなど要望がある場合はその都度対応している 個人で携帯電話を所持している方もおり、自分で後見人に電話している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日頃から清潔に努め、リビングの壁などには季節に応じて、折り紙や塗り絵など色彩豊かにしたものを飾り、和んでもらうようにしている	食堂とリビングが別になっている。食堂には職員と入居者と一緒に作成した壁飾りが展示されている。日中過ごすリビングはゆったりと落ち着いた雰囲気である。居心地よく過ごせる様テーブル配置や彩光、テレビの位置等にも工夫がされている。廊下には棟の名称であるばらと桜の写真が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで座る配置を工夫したり、ソファなどを置き、自由にくつろげるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方が以前より使われていた馴染みの家具やテーブル、椅子などを持参してもらい居室へ配置している	備え付けのタンス、ベッド以外に馴染みの椅子や、仏壇を持ってきている入居者もいる。居室には洗面台とトイレが設置され気兼ねなく使用されている。家族の写真や以前使っていた小物が置かれていて落ち着いて過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室内に手すりを設置し、安定した歩行ができるようにしている 必要な利用者にはベッド下に滑り止めマットを敷き、滑らないようにしている		